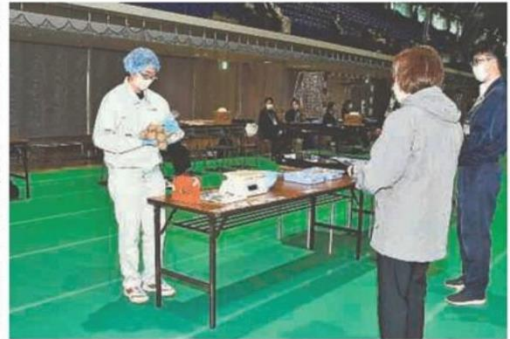


今年も選果も 腕前披露

青森

特別支援高等部生 検定・発表会



農業分野の検定に臨む生徒(左)。審査員(右2人)の前でジャガイモの袋詰めなどを行った

県教育委員会などは25日、青森市のマエタアリーナで、県内の特別支援学校高等部の生徒を対象にした「技能検定・発表会」を開いた。224人が参加し、就労に生かせる作業技術を披露したり、興味のあるテーマの発表をしたりと日頃の学習成果を発揮した。業務で求められる技能の達成度に応じ1～10級を認定する職業技能部門は本年度、農業分野を新設。7校15人が受検し、ミニトマトとジャガイモについて選果、計量、袋詰めの一連の作業を行った。審査員を務める県農林水産部職員らは服装などの衛生面もチェックしていた。

八戸高等支援学校の酒井

翔弥さん(1年)は「野菜を落としたりしないよう気をつけて作業している。きょうは練習よりもうまくできた」と満足げだった。

検定に協力した、まごころ農場(弘前市)の斎藤靖彦代表は「新しい分野だが、いい動きをする参加者もいて期待が持てる。検定を通じて、農業の仕事を知ってもらいたい」と話した。

この日は清掃、接客サービス分野の審査も行われた。PC入力分野は各学校で事前実施した。このほか会場では、ダンスなどを披露するパフォーマンス分野、自分の考えと学習成果を発表するプレゼンテーション、学習活動を紹介する展示もあった。(太田佳希)

この画像は当該ページに限って
東奥日報社が利用を許諾したものです。